

災害時に不可避

トイレ問題学ぶ

茅野市 諏訪郡 歯科医師会が防災講座

茅野、富士見、原の3市町村の歯科医でつくる茅野市諏訪郡歯科医師会（藤森伸也会長）は11日、会員の防災意識の高揚を図る講座を茅野市のマリオロイヤル会館で開いた。下諏訪町の防災士でつくる防災ネットワークしもすわの高橋敦子会長と防災漫才コンビ「シェイクアウト」で高橋会長と組む小松直人さんを講師に招き、災害時のトイレ問題について理解を深めた。

同会は、会員が東日本大震災の被災地で歯型から遺体の身元を確認する活動を行った経験を基に、災害対策委員会を設置した。防災講座は今回で6回目。24人が参加した。

災害時に見落とされがちなのがトイレの問題とされ、排泄物処理や衛生対策などのほか、排泄を我慢したり、水分摂取を抑えることで新たな病気になるケースもあるという。高橋さんは東日本大震災や

阪神淡路大震災の避難所で深刻な問題となっていた「トイレバニック」について、事例を交えながら紹介。「平時からの備えと住民の理解が大事。排せつは自己管理する心

構えを持ち、互いに協力して少しでも気持ちよく排せつができる環境を守ること。それは被災者の個人としての尊厳を守ること」と語った。

講演では、新聞紙と弁当用の



災害時のトイレ問題について語った高橋敦子会長(右)。新聞とレジ袋を使った簡易トイレの作り方も学んだ

のレジ袋を使った簡易トイレの作り方を体験。トイレ問題や災害伝言ダイヤルの活用、情報収集の手段の確保などを話題にした漫才も披露され、2人の絶妙な掛け合いで会場の笑いを誘いつつ防災意識の高揚を図っていた。(野村知秀)